

トップインタビュー

独立行政法人労働者健康福祉機構  
山陰労災病院 院長

大野 耕策 氏

注目の医師

鳥取大学医学部附属病院 精神科 講師

岩田 正明 氏

輝き続ける女性医師

谷本こどもクリニック 副院長

谷本 弘子 氏

鳥取の病院から

社会福祉法人こうほうえん  
錦海リハビリテーション病院

鳥取の研修医たち

鳥取生協病院

# KLI NI KOS

とっりの医療

【クリコス】

2014秋号

2014 autumn





### 中海(なかうみ)の夕景

中海は、弓ヶ浜半島と島根半島に閉ざされた、自然が創りあげた静かな内海。穏やかな水面を茜色に染めて沈む夕陽は珠玉の風景です。

# KLI NI KOS

とつとりの医療  
【クリニコス】  
2014秋号

## とつとりの医療

『KLINIKOS (クリニコス)——とつとりの医療』は、鳥取県で展開されている医療の魅力を、

現役医師の皆さんの生の声で伝える広報誌です。

県内の医療機関ではどのような医師が活躍しているのか、

どのような研修、チャレンジができるのか、素晴らしい先生方の取り組みや

想いを、特に若い医師や医学生に発信したいと考えて制作しました。

ギリシャ語の「klinikos」は英語／clinicの語源ともなった言葉で、

患者に対する医療行為を意味し、米語辞書の代名詞的存在である

ウェブスター辞典では、「臨床講義」や「臨床講義室」を

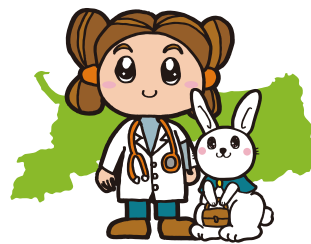
さす言葉として紹介されています。

この冊子に紹介されている先生方や医療機関の取り組みに

興味を持たれた方は、ぜひ現場を見学してみてください。

願わくば、この冊子が鳥取県で研修、勤務いただくきっかけになれば幸いです。

鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課



医療の神様  
「大國主命」と、  
神話の地鳥取県

小さな「ありがとう」のために、大きな夢をのせて…。

鳥取県が舞台と言われている神話「因幡の白兔」で、傷ついた兔を救った大國主命は、医療の神様とされています。



### 水木しげるロード

境港出身・水木しげる氏の漫画「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪たちのブロンズ像が100体以上と、妖怪グッズ&グルメのお店が並ぶ全長800mの愉快な道。

## ACCESS

### 鳥取県へのアクセス



# CONTENTS

## Top Interview トップインタビュー

独立行政法人労働者健康福祉機構 山陰労災病院 院長

### 大野 耕策氏

医師として、人間として全ての真ん中になければならないもの。それは、優しさ。です

## Doctor in focus

### 注目の医師

鳥取大学医学部附属病院 精神科 講師

### 岩田 正明氏

広い知的探求心と強い精神力を携え、  
流した汗は裏切らない。を胸に、うつ病治療の研究に挑み続ける

## Close Up Women's 輝き続ける女性医師

谷本 弘子氏 副院長

### 谷本 弘子氏

医師として何をめざしているのか。  
そう考え、行動することで道は拓ける

## Our Style 鳥取の病院から

社会福祉法人こうほうえん

### 錦海リハビリテーション病院

質・量ともに充実した、患者さんの笑顔を創る  
リハビリテーション医療を提供するために

## Succeed 鳥取の研修医たち

### 鳥取生協病院

素晴らしい環境のなか、個々がめざす医師に  
なるための、自由度の高い研修ができる

14

12

09

06

02





# Top Interview

トップインタビュー

独立行政法人労働者健康福祉機構  
山陰労災病院 院長

## 大野耕策氏

Kousaku Ohno

人の魅力に惹かれ、  
進むべき道を決めた

山陰労災病院が開院50周年を迎えた平成25年、次代の地域ニーズに応える医療の拡大・充実に向けて病院長に就任したが、当時、鳥取大学医学部 脳神経小児科分野の教授だった、大野耕策氏だ。

大野氏が病院長に就任してから、山陰労災病院は看護配置7対1の体制を実現し、高度急性期医療の体制を整えた。平成26年には産婦人科と小児科を開設するなど病院機能の充実が図られ、地域ニーズへの対応だけではなく、医師教育現場としての魅力も大きな拡がりをみせた。

大野氏が医師をめざそうと思ったのは小学校1年生のとき。きっかけは、百日咳で苦しんでいた妹が、当時、新薬であったクロラムフェニコールにより、劇的に回復した姿を見たことだった。

「そのときの光景は今でもはっきり

# 医師として、人間として 全ての真ん中に なければならないもの。 それは“優しさ”です

と脳裏に焼きついています。クロラムフェニコールを自分で飲んだくらい衝撃的でしたね。そのときから、自分は小児科医になるのだと決めました」

大野氏の出身は岐阜県岐阜市。高校までを地元で過ごし、大阪の予備校で一年間浪人した後、鳥取大学医学部に進学した。そして大野氏が大学2年生のとき、「脳神経小児科」が設立される。

鳥取大学の脳神経小児科は、脳神経小児科において大学の専門診療部門としては日本で最も早くに開設された診療科である。大野氏は、その初代科長である有馬正高教授の講義を受けて、大きな感銘を受けた。大野氏は大学卒業後に神奈川県立こども医療センターで研修を行った後、尊敬する有馬教授に師事するため鳥取大学の脳神経小児科に入局した。その後、ノースカロライナ大学への留学などを経験し、ニーマンピック病や

ゴーシエ病など、小児の遺伝性疾患を専門に研究し成果を出してきた。大野氏はこれら疾患の権威であり、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)への治療薬申請なども行った。

「当院の院長の話をいただいたとき、それまで治療法がなかった病気が、研究によって治療ができるようになってきたこともあり、後の研究は若い人に任せ、院長になることを引き受けました」

信頼関係を築くのは  
至誠惻怛の心

山陰労災病院では「救急を断らない」をモットーに、その思いを全スタッフが共有し救急医療に取り組んでいる。その成果は、鳥取県西部地区では最も多い年間救急患者受入数8000人超という数字に表れている。

「当院の救急は必ず各診療科に待機医があり、専門外だといって断ることはありません。断らない救急



医療は他科や他部署の円滑な連携が必須であり、私がこの病院に赴任してきて驚いたのは、チームワークの良さでした。そして、こうした環境は医師教育の場としても大きな魅力だと思っています」

山陰労災病院における初期臨床研修の救急研修は、負担の大きい夜間当直はなく、土日の救急外来での日直を2年間通して経験しながら、チーム医療による救急医療をしっかりと学ぶことができる。

「それに当院の医師は、病気を治すためにとことん患者さんに向き合い、治療を絶対に諦めない人間的にも素晴らしい医師たちが揃っている。その姿はときに感動すら覚えます」

大野氏には、医師として、人間として、こうありたいと大切にしている言葉がある。

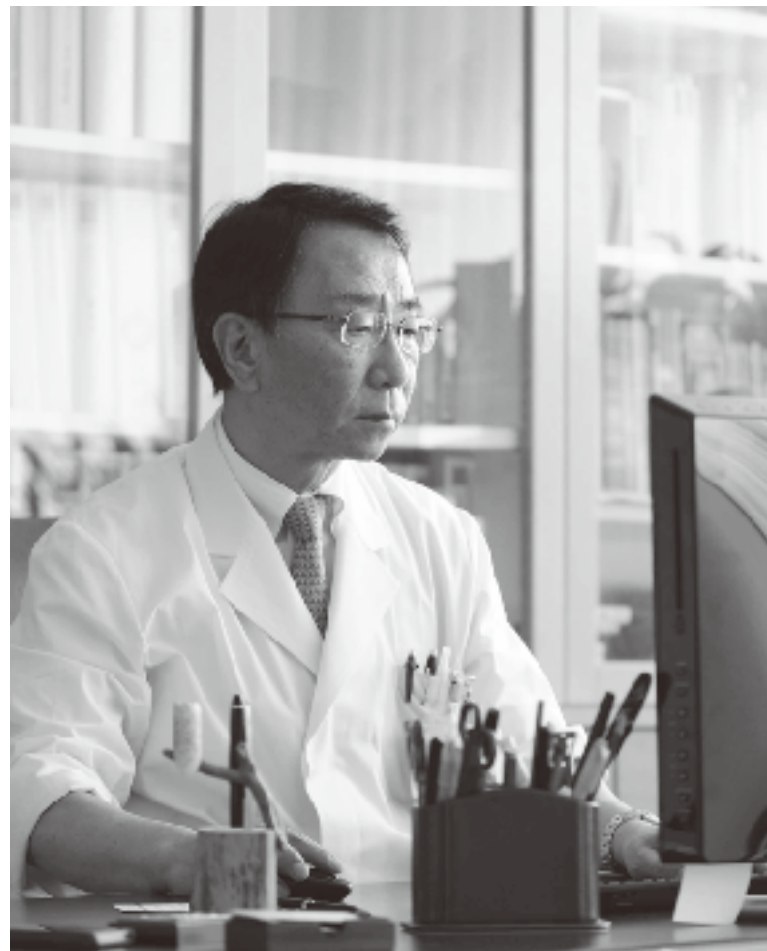
至誠惻怛(しせいそくだつ)。「これは幕末期の儒家・陽明学者である山田方谷の言葉であり、至誠とは誠意を尽くすこと、惻怛とは他

人の心を痛み悲しむ心のことです。山田方谷は、至誠惻怛を座右の銘とし、貧しかった備前松山藩の財政を立て直し、地域の産業を興して豊かな藩にしたのです」

至誠惻怛は真心と慈愛の精神であり、それは「優しさ」という言葉に集約される。

「当院の理念は『信頼・優しさ・効率』です。至誠惻怛の心は優しさであり、この心をもって患者さんやスタッフと接することで信頼関係が生まれ、効率の良い医療も実現するのです」

その思いは大野氏が考える医師育成の考え方にも現れている。大野氏は良い医師になるためには若い頃には「人の死をたくさん経験することが大事である」と言う。大野氏は研修時代に、重症な子どもにも携わり、多くの子どもの死を経験してきた。死に直面した場面では、患者や家族に対する中途半端な優しさは通用しない。死を迎える患者やその家族の心を理解するためには、医師の人



間力(優しさ)が大きく問われる。

「医師として、人間として、全ての真ん中になければならないのは優しさなのです」

出会った多くの人に  
ここまで引き上げられた

「人と人とのつながりは財産です」

大野氏はこれまでの道のりを振り返り感慨深げに言った。素晴らしい上司、仲間、ライバルに恵まれたからこそ、今の自分があると大野氏は語る。

「私が入局してから3年目で有馬教授は退官され東京に戻られましたが、その後も私のことを気にかけてくれました。ノースカロライナ大学への留学の話をいただいたのも有馬教授でした。留学先では先天性代謝異常の研究で世界を牽引した鈴木邦彦先生に師事することができました。そこで出会った多くの日本人医師や、研修先や医局で出会った仲間、ライバルたちは、現在、日本の小





児科領域などを牽引する重要な役職に就いています。そうした素晴らしい人たちが私をサポートしてくれ、自分をここまで引き上げてくれたのだと思います」

山陰労災病院が位置する米子市は古くは商都であり、他者を受け入れる懐の深い文化がある。大野氏の妻が小児科医院を開業する際は、大野氏がこれまで米子で出会った人々が自発的に世話をしてくれ、スムーズに開業ができた。「何と云っても米子は人の魅力です。私は米子が

大好きで本籍を岐阜からこちらに移しました」と、大野氏は微笑む。

人に惹かれて進むべき道を決め、人に引き上げられここまで来たという大野氏。人を引き上げる方も、引き上げられる方も、お互いに人間的魅力があり、惹かれ合わなければこの関係は成立しない。そして、人とのつながりは新たな人のつながりを生み、大野氏もまた、彼の医師としての、そして人間としての大きな魅力によって、人を進むべき道へと導いて行く。

大野氏の息子は、大野氏と同じく鳥取大学医学部脳神経小児科の

医師となった。「母親から『お父さんの教室は入局者が少ないから入ってあげなさい』と言われたら嬉しいです」と、大野氏はほおを緩める。研修医のなかにも、大野氏のように発達障害の子どもを診たいと小児科医をめざす医師が出てきた。さらに

大野氏は、院長職の他に発達障害の多い児童自立支援施設に通い、医学的な立場で子どもたちを支援し、社会復帰へと導いている。「少しでも子どもたちを社会に送り出す力になりたい」。そう力強く言った大野氏の写真に、まぶしいほどの優しさがあふれていた。

大野氏の息子は、大野氏と同じく鳥取大学医学部脳神経小児科の

## Profile

独立行政法人労働者健康福祉機構  
山陰労災病院 院長

大野 耕 策 おおの・こうさく

- 1974年 鳥取大学医学部医学科 卒業  
神奈川県立こども医療センター・ジュニアレジデント
- 1976年 鳥取大学医学部附属病院脳神経小児科(医員/助手)
- 1980年 九州大学医学部附属癌研究施設(医員/助手)
- 1981年 鳥取大学医学部附属病院 助手/講師
- 1986年 ノースカロライナ大学 脳と発達研究所・客員研究員
- 1988年 鳥取大学医学部 脳神経小児科部門 助教授
- 1993年 鳥取大学医学部 生命科学科・神経生物学講座 教授
- 2001年 鳥取大学医学部 脳神経小児科分野 教授
- 2007年 鳥取大学医学部 副学部長(2011年3月まで)
- 2013年 鳥取大学 名誉教授  
独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院・院長

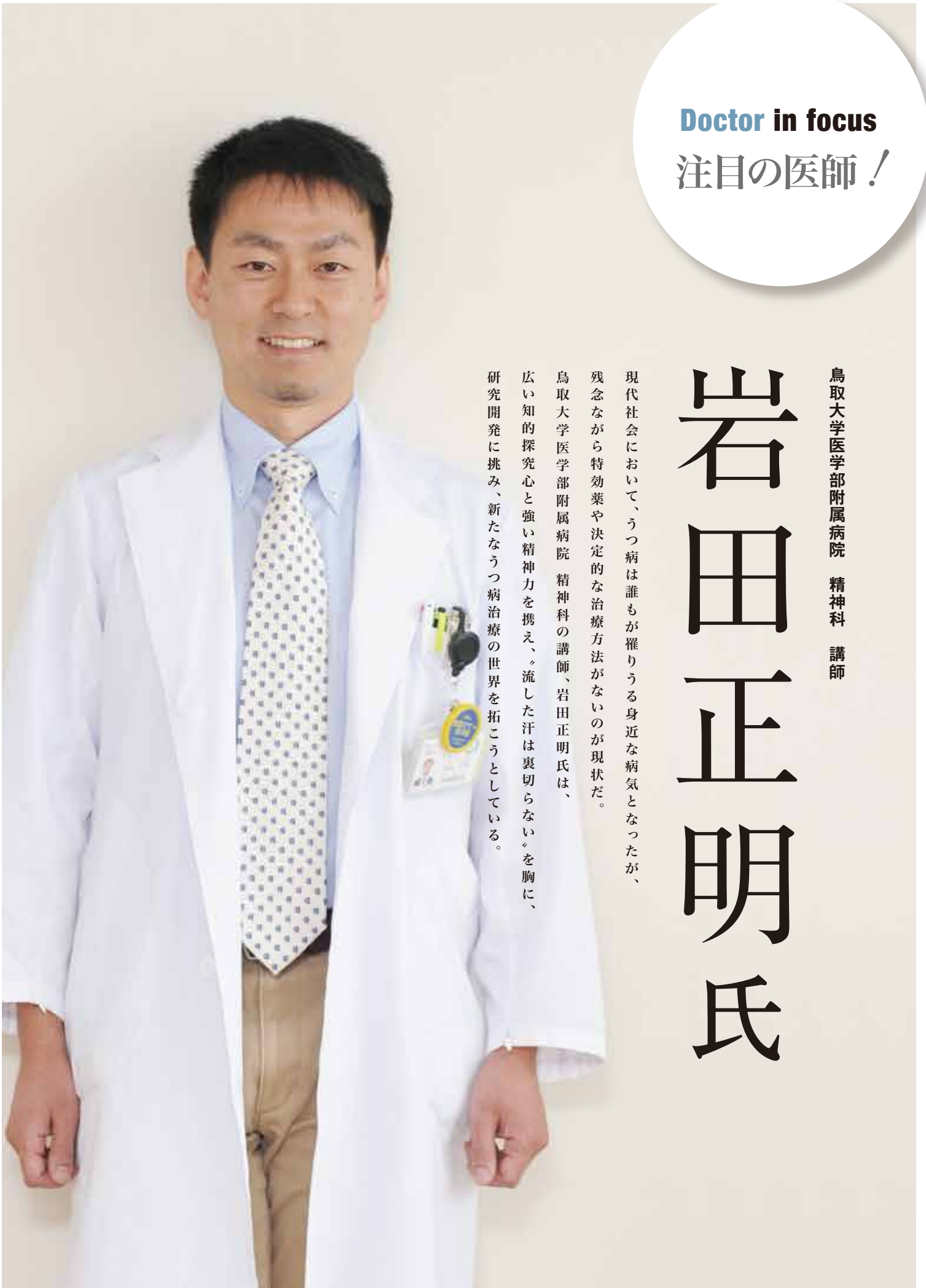
Doctor in focus  
注目の医師！

鳥取大学医学部附属病院 精神科 講師

# 岩田正明氏

現代社会において、うつ病は誰もが罹りうる身近な病気となったが、  
残念ながら特効薬や決定的な治療方法がないのが現状だ。

鳥取大学医学部附属病院 精神科の講師、岩田正明氏は、  
広い知的探究心と強い精神力を携え、流した汗は裏切らないを胸に、  
研究開発に挑み、新たなうつ病治療の世界を拓こうとしている。





## 知的探究心と精神力を養った 少年時代と学生時代

**う** つ病は、ストレスが脳の神経構造に炎症をもたらすことで発症するというメカニズムがわかってきました。これを制御する薬を製薬メーカーや他大学と協同して研究・開発を行っています」

鳥取大学医学部附属病院 精神科の講師である岩田正明氏は、今や国民病となった「うつ病」を、原因から治療する薬剤の研究・開発に取り組んでいる。

たとえば癌など、病気の原因が目に見えるものならば、外科手術などで排除する方法がある。しかし、うつ病の原因とされるストレスは目に見えるものではない。目に見えないものへの挑戦には、広い知的探究心と強い精神力が必要だ。岩田氏は少年時代から、そうした能力を養ってきた。

岩田氏は小学校の夏休みにカビや蜘蛛の研究を行い、蜘蛛の研究では自宅のダイニングルームに蜘蛛を放

ち、巣をつくる様子を観察した。「ある日、卵から孵化した蜘蛛の子が部屋中にちらばり、母親にはずいぶん迷惑をかけましたね」。また、中学時代には飛行機に興味をもち、羽の構造を自ら作り、ドライアイスの煙で風洞実験も行った。

医師を志したのは中学3年生の頃。父は精神科の開業医であり、多くの人々から尊敬される姿を見るうち、自分も父のようになりたいたいと思うようになった。高校は理数科に進学し、ボート部に入部。3年間ボート一色に明け暮れた。そして父の出身である鳥取大学医学部に進学。大学時代もボート部で汗を流し、高校、大学を通して強い精神力を養った。さらに自動車部も掛け持ちし、ジムカーナの大会に参加するなど、様々なことに全力でチャレンジした。卒業後は鳥取大学の精神科に入局。父と同じ精神科の道を歩むことにした。

「精神科への興味よりも、父母への尊敬の念が大きかったですね」

## 効率を捨て、楽しむことも 生涯にとって有意義である

**岩** 田氏は卒業後3年目に大学院へ入学する。臨床と研究を両立できる社会人大学院制度ができた年だった。

「大学院での学びは答えがなく、答えを自分で探さなければならぬ。現代社会はとかく効率を求め、医師は専門医資格の取得を重要視しがちですが、医学・医療に対しての姿勢は多少効率を捨てても楽しんだほうが、生涯にわたって有意義なものになると思います」

医師になって8年目のある日。岩田氏は当時のボート部のOB会長から、「留学しなさい」と言われた。それまで留学を考えたことがなかった岩田氏に衝撃が走った。さらに、父から精神科病棟を閉鎖することを聞く。この2重の衝撃は、岩田氏を留学の道へと突き進ませた。



**鳥取大学医学部附属病院 精神科**  
基礎研究、臨床の両面から統合失調症、うつ病、発達障害などの病態、機序の解明に取り組み、臨床教育にも力を注ぐ。さらに、地域の関連機関との多職種連携のネットワークを形成し、予防・早期介入を推し進め、治療転帰の改善をめざすシステム作りにも着手。包括的な地域社会生活の側面から、精神疾患患者の社会復帰支援に努めている。



「自分は父の病院を継ぐものと思っ  
ていました。父は病棟を閉鎖すること  
で、私の退路を断ち、留学を後押しし  
てくれたのだと思っています」

岩田氏の留学したイェール大学医学  
部アブラハム・リビコフ研究所は、精神  
科医療に関する基礎及び、臨床部門が  
協同して新たな治療法の開発に取り組  
む世界最高峰の研究所だ。スタッフ数  
は約5000人。世界中から英知が集結  
しているなか、岩田氏は机の前に自分を  
鼓舞する言葉をたくさん貼り、昼夜を  
徹して、うつ病研究に打ち込んだ。  
「言葉のほとんどは努力と根性論  
です。流した汗は裏切りませんか」  
岩田氏は「鳥取県医師海外留学資金  
貸付金制度」を利用して留学を継続延

長し、平成24年9月に帰国後、うつ病治  
療の研究室を立ち上げた。岩田氏が留  
学して痛感したのは「人は力」であるとい  
うこと。岩田氏は人材育成も最大の使  
命の一つとして、留学で培った知識や技術  
を還元し、後進育成にも力を注ぐ。

### 流した汗は裏切らない。 努力し続ければ夢は叶う

## 岩

田氏はある日、地元の人から、  
「どうして地方にはお医者さん  
が足りないのでしょうか？」と言われた  
ことがあった。岩田氏はこのとき、その  
人の話しぶりから地元の医師に対する  
大きな期待を感じ取った。「自分たち  
の手で山陰の医療を支えるというのは  
医者冥利につきますね」。ただし、知識  
と技術を習得するため、国内外問わず  
期間を限定して外に出ることも大切  
だと岩田氏と言う。岩田氏が留学して  
いた同時期には、岩田氏が把握してい  
る限り、6人もの鳥取大学の留学生が  
アメリカの大学で学んでいた。

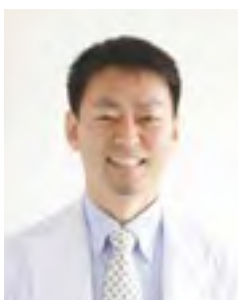


「こんなにかと驚きましたね。鳥  
取大学は地域の医療を担うと同時に、優  
れた医師の育成にも力を入れる、質実と  
もに優れた大学だと思っています」

岩田氏は留学中、週末などを利用  
して飛行訓練を受け、夢だったパイ  
ロットの資格を取得した。研究におい  
ても、ストレスによる脳内炎症を防ぐ  
薬剤の成果が見えてきた。

流した汗は裏切らない。  
何事も決して諦めることなく、努  
力し続ければ夢は叶うことを岩田氏  
は教えてくれる。そして、岩田氏の流  
した多くの汗は、近い将来、多くのう  
つ病患者を救うに違いない。

#### Profile



鳥取大学医学部附属病院 精神科 講師

岩田正明 いわた・まさあき

2000年 鳥取大学医学部 卒業  
鳥取大学医学部 精神科 入局  
2001年 鳥根県立中央病院  
2002年 鳥取大学医学部  
2004年 医療法人正心会 松北病院  
2005年 鳥取大学医学部

2008年 鳥取大学医学部 助教  
2009年 米国イェール大学 留学(3年)  
※2012年4~9月 鳥取県医師海外留学資金貸付金制度を利用  
2012年 鳥取大学医学部 助教  
2014年 鳥取大学医学部 講師

Close Up Women's  
vol.06

輝き続ける  
女性医師

医師として何をめざしているのか。  
そう考え、行動することで  
道は拓ける



谷本こどもクリニック 副院長

# 谷本弘子氏

小児科医の夫と共に谷本こどもクリニックを開業した谷本弘子氏は、小児科医として地域の小児医療に貢献しながら、子どもたちの健全育成と、安心して子どもを産み育てる環境づくりに取り組んでいる。小児科医としての仕事と、子どもたちの育ちを支援する仕事、そして母親としての仕事。谷本氏を動かす原動力はどこから来るのだろうか。谷本氏の軌跡をたどってみた。







## 大きな安心を実現した 病児保育施設の開設

「小児科である夫と共に平成5年に谷本こどもクリニックを開業したとき、2人とも病児保育をつくりたいと

るい声が広い空に澄んで響き渡る。クリニックには、認可保育所、病児保育施設、学童保育施設が隣接し、認可保育所には0歳児から就学前までの約140名もの園児が通う。病児保育施設は1日の定員が6名だが、希望者が多い日は定

強く思い、平成9年に病児保育施設と認可保育園を、しばらくして学童保育も開設しました。子どもたちの成長する姿を間近で見られるのは、大きなやりがいになりますね」と、谷本こどもクリニックの副

院長、谷本弘子氏は目を細めた。

谷本こどもクリニックは、秀峰・大山を望む、田園風景に囲まれたのどかで美しい場所であり、ときどき子ども

もたちの無邪気で明

員以上の病児も受け入れている。学童保育施設は、複数の小学校の児童が利用し、夏休みになると利用者数は100名を越す。さらに老人保健福祉施設も開設し、子どもたちは日常のお年寄りとの交流を楽しんでいる。子を持つ親にとって、こうした環境はとてつもなく大きな安心に違いない。

## 仕事を辞めざるを得ない 環境をどうにかしたかった

女性として仕事を一生続けていくためにはどうしたらいいか。高校生のとき、谷本氏はそう考え医師になることを決めた。鳥取大学に進学し、卒業後は鳥取大学の小児科に入局した。

「小児科を選んだのは、女性医師が多い診療科だったことが大きな理由でした。当時は女性医師支援が整備されていない時代で、先輩が途中で家に戻り、家事をしながら病棟に帰ってくる姿をみて、すごいなって。でも、そうした先輩が周りにいたから、自分もなんとかなるだろうという安心感がありました」



## 谷本こどもクリニック

〒683-0257 鳥取県米子市榎原1888-3

開業当時は、1日に約200名もの小児患者を診ていた谷本氏。現在は少子化の影響で少なくなったというが、それでも1日に約60名もの小児患者の診療にあたっている。さらに、通常診療の他、子どもたちが健康に暮らすことができる地域を実現するため、病児保育や学童保育のさらなる充実にも努めている。平成9年に開設した病児保育施設は、子ども同士の病気感染を防ぐため、当時としては珍しい強化ガラスで間仕切りをした4つの部屋をつくった。谷本氏はこうした自身の取り組みを全国病児保育研究大会などで発表し、子どもが健康に育つ地域づくり、そして母親が子どもを育てながら、自分が望む仕事を一生できるような社会実現をめざしている。

## 鳥取で輝く女性医師

谷本氏は当時の家庭の事情により、実家のある大阪から母親に来てもらい子どもを任せ、またあるときには、飛行機で子どもを大阪の両親に預けに行き、そのまま病院へとんぼ返りをして当直業務もこなした。子どもが病気をしたときは、鳥取にいた叔父と叔母に預けるなどして、谷本氏は男性医師と同じように働き続けた。

「自分の苦勞よりも、周りの看護師や助産師が仕事と子育てで大変なのを毎日みている、病児保育施設をつくりたいいつも思っていました。当時、鳥取には病児保育施設があまりなく、子育てのために仕事を辞めざるを得ない女性が多かったのです」

**自分のできることは責任をもってやり遂げる**

谷本氏は、これまで女性医師だからといって辛いと感じたことは一度もなかったと言っ。

「小児科医になったこと、そして子

育てができたことは、本当に良かったと思っています。そもそも私は男性医師、女性医師という区別を考えたことがないのです。医師として自分は何をめざしているのか。そう考え、行動してきたことで、自分の道が拓けてきたのだと思います」

仕事と家庭の両立は難しい。だからこそ、谷本氏は全てを完璧にこなすのではなく、「手を抜くところは手を抜き、人に任せるところは任せる」ことが大事だと言っ。

「できないことはできないのです。ただ、自分が必要とされ任されたこと、自分のできることは一所懸命に責任をもって最後までやり遂げることが大事。すると、自然と周りの人が助けてくれるのです」

いのちは未来につながっている。病気を診ていた子どもがやがて大人になり、結婚し、子どもが生まれて親になる。そして今度は、親として子どもを連れ、谷本氏のもとを訪れる。子どもたちを守ることは、まだ生まれていない人を守ること。それは未来を創ることでもある。谷本氏は、この地から鳥取県の未来を創っているのだ。



谷本こどもクリニック 副院長

**谷本 弘子** たにもと・ひろこ

- 1982年 鳥取大学医学部 卒業  
鳥取大学医学部 小児科医局入局
- 1982年～1993年 鳥取大学医学部附属病院の他、博愛病院、国立米子病院（現米子医療センター）で小児科医として勤務
- 1993年 夫（小児科医）とともに小児科医院を開業
- 1997年 社会福祉法人（夫が理事長）を設立し、小児科医院に隣接して病児保育施設と認可保育所を開設
- 2004年 学童保育施設を開設



Our Style

鳥取の病院から

社会福祉法人こうほうえん

# 錦海リハビリテーション病院

今回紹介する病院は、鳥取県米子市錦海町に位置する「社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院」。回復期のリハビリテーション医療と地域連携を通して、患者さんが今を、そして明日を自分らしく生きるために、365日、切れ目のないリハビリテーション医療を提供している。病院スローガンは“笑顔を創るリハビリテーション”。錦海リハビリテーション病院は、スタッフも患者さんも、未来をみつめる明るいまなざしに満ちていた。

365日、切れ目のない  
リハビリテーションを  
集中的に提供する

弓ヶ浜半島と島根半島に囲まれた湖、「中海」(米子市では、「錦海」とも呼ぶ)の目と鼻の先に位置するのどかな場所に、錦海リハビリテーション病院はある。病院に入ると、スタッフの笑顔と活気が迎えてくれ、病院であることを忘れるくらい気持ち良い空間のなか、白衣を着ているスタッフがいないことに気が付く。「病院らしくない病院をめざしているのです」と、院長である井後雅之氏は優しく微笑んだ。

錦海リハビリテーション病院は、脳卒中や骨・関節術後、高齢者廃用症候などで不自由(障害)を負つ





一方で回復期リハビリテーション医療を提供する専門病院だ。病院が位置する米子市は、高齢化率が全国平均を上回る23・9%（平成23年時点）であり、すでに超高齢社会が到来した地域。錦海リハビリテーション病院は、この地域ニーズに迅速に対応するため、医療・介護保険の適応整備や、回復期リハビリテーション病棟の体制整備などを充実させてきた。

## 質・量ともに充実した医療と スタッフの笑顔と活気が 患者さんの笑顔を作る

「リハビリで回復した機能は、1日、2日とリハビリを休むことで後退してしまうことがあるため、当院では365日の切れ目のない集中的なリハビリを提供しています。それを実現させるために、4名の医師

と、56名の理学療法（PT）・作業療法（OT）・言語聴覚療法（ST）のリハビリ専門職、41名の看護・介護職という充実した体制で、ベッド数48床の患者さんを早期在宅復帰へと導いています」

さらに、患者さん個々の環境適応を促し、また、感染症リスクを抑えるため、48床は全て個室に。より安全で効率の高い医療を提供するため、情報集約による多職種間での情報共有を可能にした電子カルテ

の導入。各患者さんの状態に関わりが深い職種がサブリーダーとなり、治療コーディネートを主導するサブリーダー制を採用したチームワーク医療など、質・量ともに充分なりハビリテーション医療を提供する工夫がなされている。その成果は実績としてしっかりと表れ、平成25年度の在宅復帰率は全国平均を大きく上回る85・6%という高い数字を誇り、患者さんからのアンケートでも高い評価を得ている。

「もちろん、人材育成も重要であり力を入れています。当院では院外講師による指導や、学会での発表、研修派遣など、各職種に充実した教育研修制度が用意されています。

また、当院は日本リハビリテーション医学会の指定研修病院であり、リハビリテーション科専門医の資格を取ることができる。リハビリテーション医をめざす若い医師や、専門科は異なるがリハビリテーション医に興味のある先生を歓迎します」



社会福祉法人こうほうえん  
 錦海リハビリテーション病院の  
 見学などのお問い合わせ先

社会福祉法人こうほうえん  
 錦海リハビリテーション病院

〒683-0825

鳥取県米子市錦海町3-4-5

TEL: 0859-34-2300

FAX: 0859-34-2303

URL: <http://www.kohoen.jp/>



鳥取の研修医たち

## 鳥取生協病院

労働者が出資し、生協法のもとに全国で初めて設立された医療機関、鳥取生協病院。ここではどのような医療が実施され、どのような研修が行われているのだろうか。指導医である菊本直樹先生と、研修医である山崎彰先生の対談から、鳥取生協病院の魅力に迫る。

個々の目標に合った、自由でレベルの高い研修ができる

**(研修医) 山崎先生**…鳥取生協病院を研修先を選んだ一番の理由は、病院見学时に菊本先生に説明を受けたとき、「この先生の元で学びたい」と感じたからなんですよ。  
**菊本先生**…ちょっと期待し過ぎじゃないかな。

**(研修医) 山崎先生**…いえいえ。菊本先生の医療に対してとことん追求していく姿勢は本当に勉強になりますし、とても楽しくお仕事をされているので、僕も菊本先生みたいに仕事

ができたらなとも思っています。  
菊本先生…やはり仕事は楽しくないかね。

**(研修医) 山崎先生**…それに、鳥取生協病院の提供する、医療や研修プログラムにも魅力を感じ、この病院ならではの有意義な研修を受けられると思います。

**菊本先生**…当院の特徴は、労働者等組合員の方々が出資し、昭和26年に全国で初めてできた医療生協の病院で、経済的に困って医療を受けられない人々を支援してきた伝統があります。ですから、患者さんの生活背景までを含めた医療を学ぶことができますし、救急(2次輪番)に力を入れているので、多様な患者さんを診

ることができる。症例も豊富で、初期研修で重要なプライマリケアを確実に修得することができます。

**(研修医) 山崎先生**…当院で経験できない診療や症例は、多数の関連病院で経験、修得できるなど、自由度の高い研修ができるのもいいですよ。

**菊本先生**…そうだよ。医療生協関係も含めると全国の関連病院の幅広いフィールドを活用したレベルの高い研修ができる。私も当院で研修を受けましたが、数十年前から各科ローテート研修で医師育成をしてきた実績があり、当時も研修先は自由に選べるということで、私は関連病院で呼吸器内科を学びました。後期研修も個々の希望に沿ったオーダーメイドのプログラムを作ることができます。そうした、研修の自由度の高さも大きな魅力だよ。

医が視野に入ってくるので、内科を勉強しながら、標榜医資格も取りたいと思っています。こうしたことも当院では可能で、とても柔軟性がある病院ですよ。

**菊本先生**…それに260床という規模も強みです。研修医と指導医、そして患者さんとの距離が近い中規模病院だからこそ、見学で終わることのない、しっかりとした臨床経験ができる。

**(研修医) 山崎先生**…そうですね。先生方はもちろん、コメディカルさんも全て顔見知りで、普段から色々とアドバイスをいただけるので、常に知識を吸収している感じですよ。  
**菊本先生**…週に一回、多職種カンファレンスがあって、各職種の視点から症例報告があるなど、幅広い知識を吸収できる環境にあるよね。単一医局によるコンサルトのしやすさもいい。大病院ではないけど医療レベルは高く、急性期から回復期、さらに緩和ケア病棟でターミナルケアも学べる。ここでは本当に多くの症例を経験できます。

### 素晴らしい環境のなか 医師をするという贅沢

**(研修医) 山崎先生**…現在、初期研修医は僕一人ですが、一人だから負担が大きいというのではなく、受け持ち患者数も到達度によって、5人程度で調節していただけますし、各診療科の先生方が担当患者を考えてくださるので効率よく学ぶことができます。でも一人は寂しいので後輩が入ってきて欲しいですね。

**菊本先生**…若い先生が入ってくると病院全体が活気付きますよね。当院に研修に来られる先生には、山崎先





# Succeed

## 鳥取の研修医たち



生のように、積極的に自分のしたい医療を、その都度目標を確認しながら自分で研修プログラムを作っていくって欲しいなと思います。

**(研修医) 山崎先生**…研修先を選ぶときに都会の大病院に目が行きがちですが、当院のような、地域の規模病院にも菊本先生がおっしゃったように都会の大病院では経験できない大きな強みがあります。

**菊本先生**…それに、ここは土地環境も素晴らしい。鳥取には豊かな歴史

と文化が息づき、山々と海は美しく、魚と酒がうまい。スキー場や温泉

もある。こうした環境で医師ができるというのは、とても贅沢だと思います。私は水泳が趣味なのですが、山陰海岸ジオパークのキレイな海で泳ぐと、まるで水族館のように魚たちを見ることができ感動しますよ。

**(研修医) 山崎先生**…僕はバイクが趣味なのですが、山陰道を走ると景色が良くて本当に気持ちいいですね。それと僕は、「そつでしようやー」という方言が好きです。「そつですね」という意味なのですが、患者さんが言っているのを聞くと、癒されます。最近、自分の口からも出るようになってきました。

**菊本先生**…とにかく一度、病院見学に来て欲しいですね。見学はいつでも受け付けていますし、当直や救急、緩和ケアなど、当院の全てを見学、体験していただくことができます。それに、土地環境の素晴らしいさも、ぜひ体感して欲しいです。



研修2年目

**山崎彰** (やまさき・あきら)

●出身 鳥取県 ●出身大学 鳥取大学医学部 ●趣味 バイク



指導医 呼吸器内科所属

**菊本直樹** (きくもと・なおき)

●出身 鳥取県 ●出身大学 鳥取大学医学部 ●趣味 山と海、旅行等

1985年 鳥取大学医学部卒業後、鳥取生協病院に勤務  
1989年 神戸市立中央市民病院呼吸器内科フェロー  
2002年 鳥取生協病院内科 病院部長  
2006年 鳥取県東部喘息死ゼロの会世話人  
2011年 鳥取大学医学部地域医療学臨床教授



### 鳥取生協病院

鳥取生協病院は、鳥取駅から徒歩8分と鳥取市街地の中心に位置する、昭和26年(1951年)に労働者の出資により「医療生協」として全国で初めて設立された医療機関。無差別平等の医療を提供するため、無料低額診療事業を採用するなど、地域住民の命を守り続けている。鳥取県東部保健医療圏の基幹病院であり、4つの救急輪番病院の一つとして、地域の二次救急において重要な役割も果たす。2008年に新築移転し、病床数は260床(急性期病床192・回復期リハビリテーション病床48・緩和ケア病床20)。地域の最前線の医療機関として、地域住民の幅広い医療ニーズに応えている。

# KLINIKOS BACK NUMBER

## バックナンバー



**トップインタビュー**  
鳥取大学医学部附属病院長  
豊島 良太氏

**この人に注目**  
鳥取県立総合療育センター 療育支援シニアディレクター  
北原 佑氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
鳥取大学医学部皮膚病態学講師  
山田 七子氏

**来たれ研修医!**  
鳥取県立中央病院

**病院探訪**  
日南町国民健康保険日南病院

2010年冬号



**トップインタビュー**  
鳥取県立厚生病院病院長  
前田 通郎氏

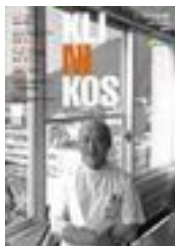
**この人に注目**  
社会医療法人仁厚会  
藤井政雄記念病院副院長・緩和ケア科病棟長  
足立 誠司氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
鳥取赤十字病院眼科部長  
高橋 芳香氏

**来たれ研修医!**  
鳥取生協病院

**病院探訪**  
日野病院組合日野病院

2010年秋号



**トップインタビュー**  
鳥取赤十字病院病院長  
齋藤 基氏

**この人に注目**  
鳥取大学医学部生協機能医学教授 低侵襲外科センター長  
原田 省氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
独立行政法人国立病院機構  
米子医療センター 耳鼻咽喉科  
山本 祐子氏

**来たれ研修医!**  
鳥取市立病院

**病院探訪**  
鳥取県中部医師会立三朝温泉病院

2011年秋号



**トップインタビュー**  
鳥取県立中央病院病院長  
日野 理彦氏

**この人に注目**  
鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科  
國本 泰臣氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
鳥取大学医学部附属病院 女性診療科  
藪田 結子氏

**病院探訪**  
国立病院機構鳥取医療センター

**研修医に聞く**  
鳥取市立病院

2013年春号



**トップインタビュー**  
鳥取県立中央病院院長  
武田 伸氏

**この人に注目**  
独立行政法人国立病院機構 米子医療センター 院長  
濱副 隆一氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
鳥取大学医学部附属病院 内分泌代謝内科（第一内科）  
大倉 裕子氏

**来たれ研修医!**  
鳥取大学医学部附属病院

**病院探訪**  
智頭町国民健康保険智頭病院

2010年春号



**トップインタビュー**  
独立行政法人労働者健康福祉機構  
山陰労災病院長  
石部 裕一氏

**この人に注目**  
自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児科研修医  
大谷 英之氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
鳥取県立厚生病院外科  
田中 裕子氏

**来たれ研修医!**  
日本赤十字社鳥取赤十字病院

**病院探訪**  
南部町国民健康保険西伯病院

2011年冬号



**トップインタビュー**  
鳥取生協病院病院長  
齋藤 基氏

**この人に注目**  
鳥取大学医学部地域医療学講座教授  
谷口 晋一氏

**学会ルポ**  
第4回鳥取県国保地域医療学会

**来たれ研修医!**  
国立病院機構米子医療センター

2012年春号



**トップインタビュー**  
鳥取市立病院 病院長  
山下 裕氏

**注目の医師**  
独立行政法人国立病院機構 米子医療センター 副院長  
杉谷 篤氏

**輝き続ける女性医師**  
武信眼科 院長 鳥取県医師会理事（女性医師対策 主担当）  
武信 順子氏

**鳥取の病院から**  
医療法人十字会 野島病院

**鳥取の研修医たち**  
鳥取大学医学部附属病院

2013年秋号



**トップインタビュー**  
鳥取市立病院院長  
田中 紀章氏

**この人に注目**  
鳥取大学大学院医学系研究科教授 /  
鳥取大学染色体工学研究センター センター長  
押村 光雄氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
智頭町国民健康保険智頭病院内科  
渡邊 ありさ氏

**来たれ研修医!**  
山陰労災病院

**病院探訪**  
岩美町国民健康保険岩美病院

2010年夏号



**トップインタビュー**  
鳥取県立総合療育センター 院長  
鯉 俊朗氏

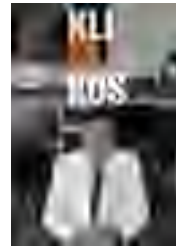
**この人に注目**  
鳥取大学医学部救急・災害医学分野教授  
鳥取大学医学部附属病院 救命救急センター センター長  
本間 正人氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
鳥取生協病院内科医師  
平田 雅子氏

**来たれ研修医!**  
鳥取県立厚生病院

**病院探訪**  
江府町国民健康保険江尾診療所

2011年春号



**トップインタビュー**  
鳥取大学医学部附属病院長  
北野 博也氏

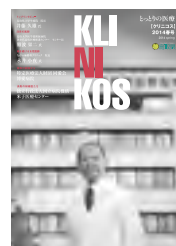
**この人に注目**  
鳥取県立中央病院麻酔科  
乗本 志孝氏

**鳥取で活躍する女性医師**  
湯川医院院長  
湯川 喜美氏

**病院探訪**  
鳥取県済生会境港総合病院

**研修医に聞く**  
鳥取県立厚生病院

2012年秋号



**トップインタビュー**  
鳥取県立厚生病院 病院長  
井藤 久雄氏

**注目の医師**  
鳥取大学医学部附属病院  
次世代高度医療推進センター センター長  
難波 栄二氏

**輝き続ける女性医師**  
なかい麻酔科クリニック 院長  
永井 小夜氏

**鳥取の病院から**  
特定医療法人財団 同愛会 博愛病院

**鳥取の研修医たち**  
独立行政法人国立病院機構  
米子医療センター

2014年春号

## 編集後記

鳥取県では、都市部に負けない高度で先進的な医療と、都市部では経験できない地域と患者さんに密着した医療を実施しています。鳥取から生まれる新たな医療。そして、鳥取から日本の医療を牽引する医師たち。さらに、人間の魅力にあふれたあたたかい人々と、美しく豊かな自然に囲まれた環境で医師としての研鑽を積むことは、なんと素晴らしいことなのか。この鳥取の地で医師をする素晴らしさを、今回の記事を読んで体感していただければと思います。

# KLINIKOS

## STAFF CREDIT

発行	鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課 ( <a href="http://www.pref.tottori.lg.jp">http://www.pref.tottori.lg.jp</a> )
編集制作	【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社 ( <a href="http://www.medical-principle.co.jp">http://www.medical-principle.co.jp</a> )
制作協力	株式会社メディア出版
アートディレクター	正代結希
ライター	田口素行
カメラマン	小山英樹

# 鳥取県で働いてみませんか。

鳥取県は医師のキャリア形成、子育て後の復職などについて積極的に支援しています。



## 地域医療に関心のある方へ

鳥取県医師登録・派遣システム（ローテートコース）  
複数の公立病院等をローテートしながら、鳥取の医療の現場を経験できます。  
（その間に研修を行うことができます）

## 子育て等で現場を離れ、復職を考えている方へ

鳥取県医師登録・派遣システム（子育て離職医師等復帰支援コース）  
●鳥取大学医学部附属病院ワークライフバランス支援センターと協力し、現場復帰のための研修を県立病院、鳥大附属病院等で行います。  
●研修後の復職についても、仕事と家庭の両立に配慮した医療機関を紹介します。

## キャリア形成を考えている方へ

鳥取県専門研修医師支援事業  
県外の医療機関に県職員として研修派遣します。  
鳥取県医師海外留学資金貸付制度  
海外留学のための資金を貸与します。

## 鳥取県内の求人情報を探している方へ

県内医療機関の求人情報の提供、あっせん、紹介を行います。

## 見学を希望される方へ

● 県外の方で病院見学を希望される場合は、旅費を支給します。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/iryouseisaku/>

鳥取県 医師確保

検索

# 鳥取県で初期臨床研修をしませんか。

鳥取県は県と県内臨床研修病院が協議会を立ち上げ、研修医のための様々な取り組みを行っています。また、医学生が県内臨床研修病院を見学する場合には旅費を支給しています。

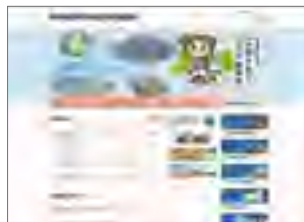


## 鳥取県臨床研修指定病院協議会の事業

- 研修医の受講する救急講習 (ACLS,BLS,ICLS) 受講料を助成します。
- 年 1 回各病院の研修医が集まる研修医交流会を開催します。
- 研修医を対象とした著名講師による臨床研修セミナーを開催します。
- 鳥取県東部 4 病院（県立中央病院、鳥取市立病院、鳥取赤十字病院、鳥取生協病院）にマッチングした研修医は、様々な特色を持つ 4 病院で希望に応じた研修を行うことができます。

鳥取県臨床研修指定病院協議会のホームページをぜひご覧ください

鳥取県の臨床研修病院の魅力を知っていただくため、ホームページを作成しています。各病院の最新情報、プロモーションビデオなど魅力満載ですので、ぜひご覧ください。



<http://www.tori-rinsyou.jp/index.php>

鳥取県 臨床研修

検索



【お問い合わせ】 鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課医療人材確保室

〒 680-8570 鳥取県鳥取市東町 1-220 TEL : 0857-26-7195 FAX : 0857-21-3048

Mail : ishikakuho@pref.tottori.jp